



コールセンターからの小さなよみもの



2021年5月31日

Vol  
148

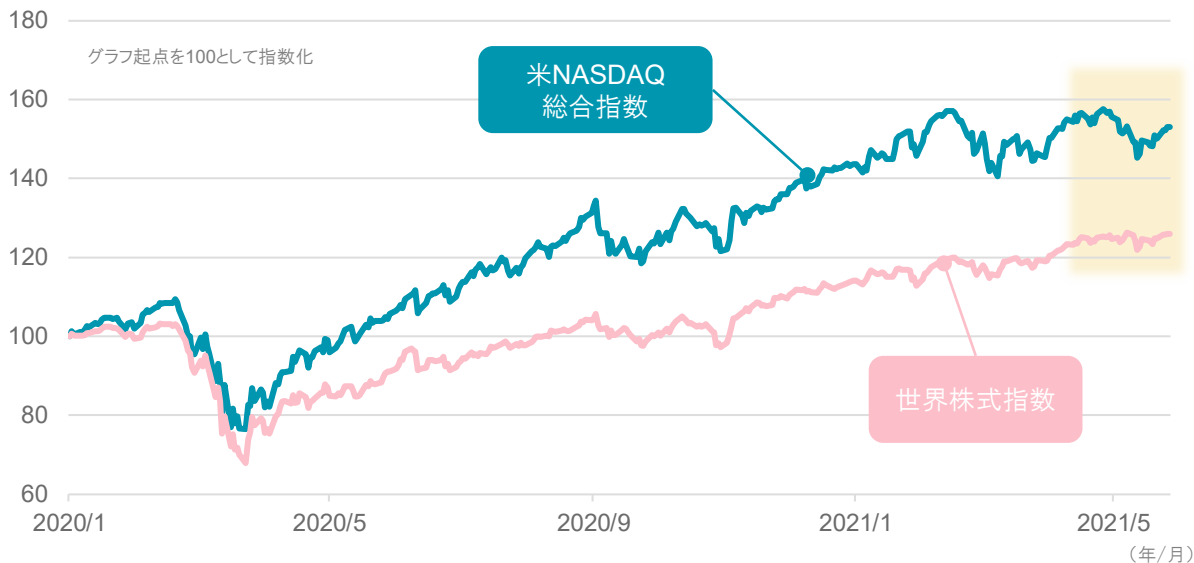
## 売却する人が増えると基準価額も下がる!? 基準価額について誤解していませんか？

コロナ・ショック以降、堅調に推移してきた世界の株式市場ですが、足元では軟調に推移しています。とりわけ、世界株式指数を大きく上回るパフォーマンスを続けてきた、米ナスダック総合指数が上値の重い展開となっています。\*当社ファンドのなかでも、米ハイテク株への投資比率が高いファンドの下落が目立ちます。

「現状や今後の見通しを聞きたい」というお問い合わせを多くいただく一方で、「不安に思って売却する人が増えると、基準価額はさらに下がるのか」「市場が下がったところで買付を考えているが、基準価額の低いファンドを教えてください」といった、そもそも基準価額について誤解していると思われる方からの問い合わせも増えています。そこで今回は、とくに下落時によく頂く3つの質問をご紹介します、あらためて基準価額について押さえておきたいポイントをお話したいと思います。

\*本資料作成時点

■米ナスダック総合指数と世界株式指数\*の推移  
期間：2020年1月1日～2021年5月27日（日次）



\*世界株式指数：MSCIワールド指数

※信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成 ※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの

「基準価額が●●円も下がったんだけど、大丈夫？」

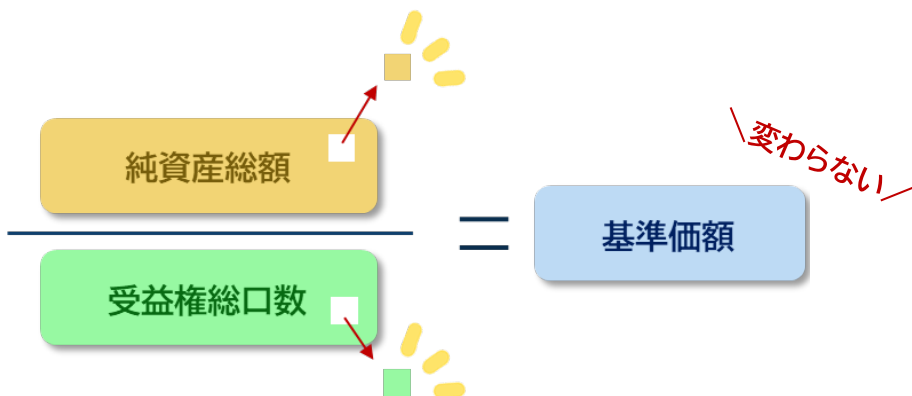
「Bは30円しか下がっていないのに、Aは200円も下がった…」と考えてしまうかもしれません。基準価額を見るときは、「●●円下がった」という「額」ではなく、「果たして何%の下落なのかな？」という「率」を考えることが大切です。つまり、このケースでは、「AもBも、同じ1%基準価額が下がった」と考えることが正しい理解といえます。

	ファンドA	ファンドB
前日	20,000円	3,000円
当日	19,800円	2,970円
下落額	▲200円	▲30円
下落率	▲1.0%	▲1.0%



「売却する人が増えると、基準価額は下がるのでは？」

答えはNOです。売却する人がいると純資産総額が減ります。と同時に、それに見合う受益権総口数も減少します。分子も分母も減るので基準価額は変化しないというわけです。基準価額は、分子の純資産総額が変動した場合にのみ、つまり投資対象が上昇・下落した場合にのみ変動するのです。



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの

「買付を検討しているが、基準価額の低いファンドを教えてください」

先ほどお話したとおり、基準価額が変動するのは、投資対象が値上がり・値下がりした場合のみです。下図のとおり、投資対象が10%値上がりすれば基準価額は10%上昇し、反対に5%値下がりすれば基準価額も5%下落する“だけ”なので、基準価額の低いファンドが有利というのは正しくありません。基準価額は、二時点間の変化率を測るための“モノサシ”にすぎません。基準価額の水準自体に、「高い・安い」の意味はありませんから、基準価額の水準でファンド選びをするのはオススメしません。

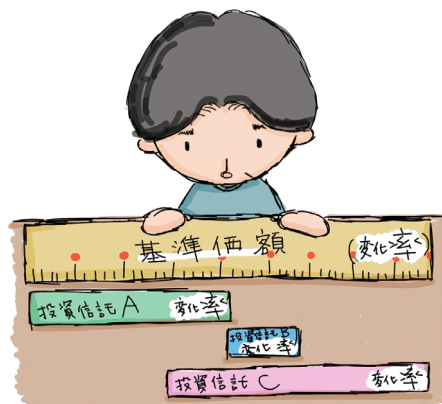
■投資対象が10%上昇した場合

	基準価額		基準価額
ファンドA	5,000円	▶	5,500円
ファンドB	20,000円		22,000円

■投資対象が10%下落した場合

	基準価額		基準価額
ファンドA	5,000円	▶	4,500円
ファンドB	20,000円		18,000円

\*簡易的な説明をしています。投資対象の変動率と投信の変動率とは、その投信の投資目的やインデックスファンドかどうかなどの商品性の他、様々な要因により異なります。



■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



## 原点に立ち返ったうえで、市場に居続けるという投資スタンスが大事です

投資信託の基準価額についてご理解いただけただけでしょうか。大切なことは、その投資信託が組入れている有価証券がこれから上がるかどうか、ということです。基準価額の水準だけを見て判断することは得策とはいえません。

とくに下落局面では、①買付時に思い描いた投資対象の成長シナリオ、②設定した時間軸といった「原点」を思い返すことが重要です。こうした「原点」に立ち返ったうえで、変更がないことが確認できれば、大きく考え、大きく構え、どっしりと市場に居続けることをオススメします。

nikko am

コールセンター  
0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

